

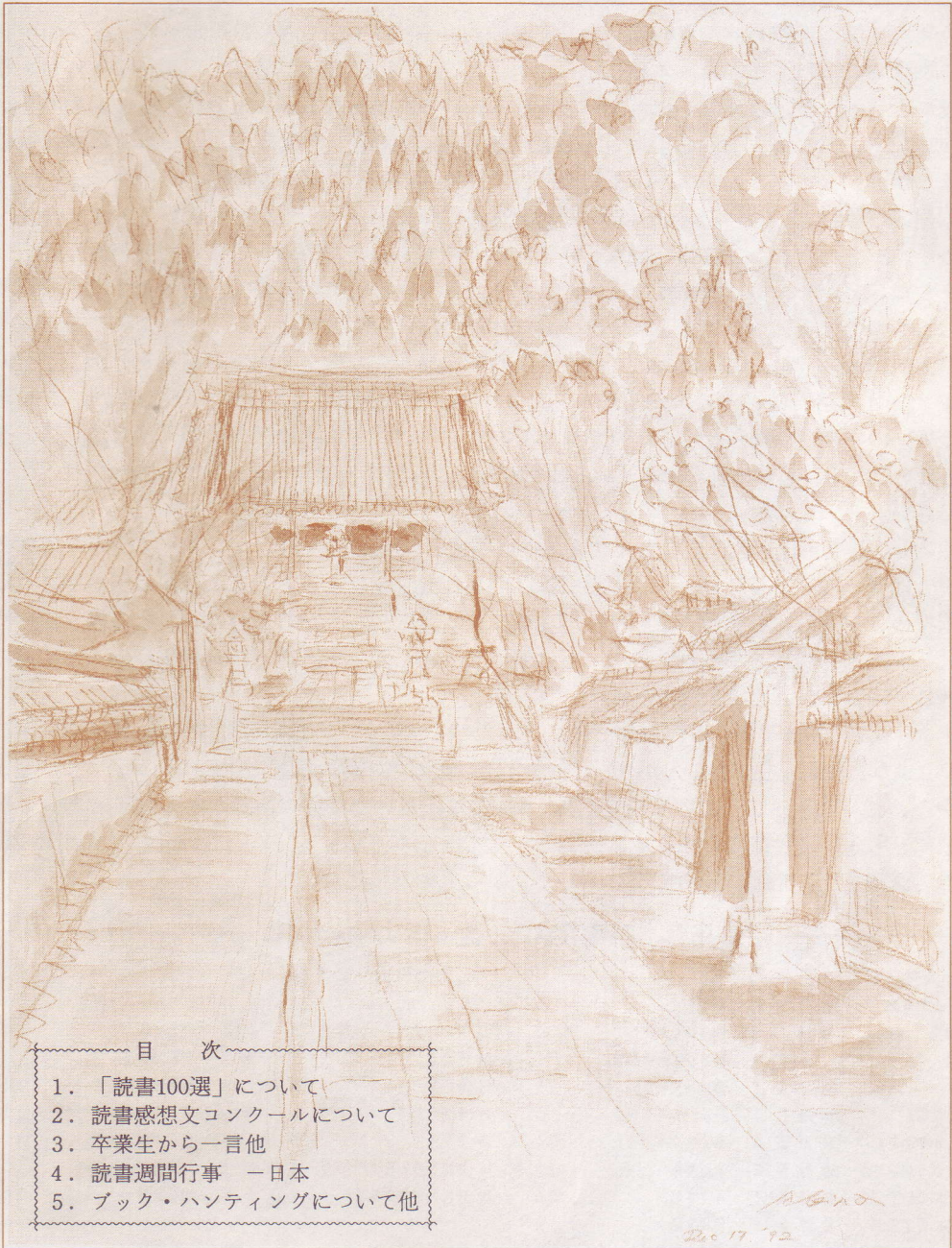
Library News

図書館だより

No. 38

Nara National College of Technology

1995年2月 奈良工業高等専門学校図書館発行



目次

1. 「読書100選」について
2. 読書感想文コンクールについて
3. 卒業生から一言他
4. 読書週間行事 -日本
5. ブック・ハンティングについて他

(矢田寺・本校名誉教授 石垣 昭先生スケッチ集より)

「奈良高専 読書案内100選」について

図書館長 細井 誠 司

実用性や娯楽性の高い本に人気が集まり、一見無用な、しかし、人格や人生の基礎を形造るのに必須の本はあまり読まれなくなってきました。本の役割や読書の意味も少しずつ変わってきているのでしょう。そうした現実を背^{うけ}いながらもなお私たち教官は、若い学生諸君に向かって「これこれの本をいま読んでおいて」と呼びかけずにはられません。

そこで今年度の図書館委員会では、新たに「奈良高専 読書案内100選」を選定して、諸君の読書生活の参考に供することにしました。本校には、これまで「必読図書100選」（昭和56年版）がありましたが、既に十余年を経過し実情に合わなくなったり入手の困難な本もあつたりして、改訂の必要が生じていたからでもあります。改訂を機に、名称も「読書案内100選」と改めました。本を敬遠ぎみの人や何を讀もうかと迷っている人も、これを参考に、読書生活の充実に努めてください。

新「100選」の選定にあたっては、「必読図書100選」に準拠しながらも、さらに読みやすい作品を採るように心がけました。また、自費で購入して読むことに配慮して、廉価な文庫本や新書版を選択の中心に据えました。しかし、中には高価なハードカバーの本も含まれているので、図書館では全冊取り揃えて、貸し出しのできるように準備しています。

新「読書案内100選」は、「必読図書100選」のうち58作品を入れ替えて出来あがりしました。下記の一覧がそれです。さて諸君は、どの本から読み始めますか。「人間と人生」の項からですか、それとも「科学と技術」の中の一冊からですか。ロボコンでおなじみになった森政弘先生の『超常識』はどうでしょう。あれもこれも、諸君に読んでほしい本ばかりです。図書館の特設コーナーで、ぜひ一度手にとって見てください。

「読書案内100選の手引」もB5判の大きさで作成しました。図書館のカウンターで配布していますから、希望者は受け取ってください。手引書では、簡単な解説を加えるとともに、本の難易度を☆印で示して、選択の目安としています。さらにその右側には、ささやかながら4行の一口メモ欄を設けました。読書ノートへと発展させてくれたら……との願いを込めたのです。読んだ日付や登場人物、簡単な読後感などに利用したらどうでしょう。

昭和56年版「必読図書100選」が作られたのは、本校の一学生が、専攻の分野以外から100冊を選び5年間で読破しようと計画を立てたことがきっかけでした。近ごろでは、軽読書化の傾向がますます強まっていますから、諸君にとって、この「読書案内100選」はあるいは負担であるかも知れません。しかしこれを契機に、ちょっと手応えのある本に挑戦してみてもはどうでしょう。めいめい自由に、自分の読書計画をたてて読書生活の充実に励んでほしい、そう願ってやみません。

奈良高専 読書案内100選 (☆印は難易度の目安)

【人間と人生】

01 生きることの意味	高 史 明	ちくま文庫	☆
02 ブッダ物語	中 村 元	岩波ジュニア新書	☆
03 聖書物語	山 形 孝 夫	岩波ジュニア新書	☆
04 論語	貝 塚 茂 樹	講談社現代新書	☆☆
05 青春とはなにか	真 継 伸 彦	岩波ジュニア新書	☆
06 恋愛なんかやめておけ	松 田 道 雄	ちくま少年図書館	☆☆
07 君たちはどう生きるか	吉 野 源 三 郎	岩波文庫	☆☆
08 生きがいについて	神 谷 美 恵 子	みすず書房	☆☆
09 誰のために愛するか	曾 野 綾 子	角川文庫	☆
10 きけ わだつみのこえ	戦 役 学 徒	岩波文庫、同ワイド版	☆☆☆

【ものの見方・考え方】

11 ことばの力	川 崎 洋	岩波ジュニア新書	☆
12 ものの見方について	笠 信 太 郎	朝日文庫	☆
13 超常識	森 政 弘	PHP文庫	☆
14 考え方の論理	沢 田 允 彦	講談社学術文庫	☆
15 学問の創造	福 井 謙 一	朝日文庫	☆☆
16 方法序説	テ カ ル ト	角川文庫	☆☆
17 知的生産の技術	梅 棹 忠 夫	岩波新書	☆
18 理科系の作文技術	木 下 是 雄	中公新書	☆☆

【歴史・社会・文化】

19	1945年8月6日	伊東 壮	岩波ジュニア新書	☆
20	子どもたちの太平洋戦争	山中 恒	岩波新書	☆
21	いかそう日本国憲法	奥平 康弘	岩波ジュニア新書	☆
22	夜と霧	フランクル	みすず書房	☆☆
23	こんな差別が	小林 初枝	ちくま少年図書館	☆☆
24	奈良の寺々	太田 博太郎	岩波ジュニア新書	☆
25	奈良-古代史への旅-	直木 孝次郎	岩波新書	☆☆
26	法隆寺を支えた木	西岡 常一	NHKブックス	☆
27	あゝ野麦峠	山本 茂美	角川文庫	☆☆
28	タテ社会の人間関係	中根 千枝	講談社現代新書	☆☆
29	森林の思考・砂漠の思考	鈴木 秀夫	NHKブックス	☆☆
30	風土	和辻 哲郎	岩波文庫、同ワイド版	☆☆☆
31	宇宙からの帰還	立花 隆	中公文庫	☆☆

【伝記(創造者・開拓者)】

32	福翁自伝	福沢 諭吉	岩波文庫、同ワイド版	☆☆
33	旅人	湯川 秀樹	角川文庫	☆
34	古代への情熱	シュリーマン	岩波文庫、同ワイド版	☆
35	ソクラテスの弁明	プラトン	岩波文庫、同ワイド版	☆
36	ルソー	桑原 武夫編	岩波新書	☆☆
37	パスカル	前田 陽一	中公新書	☆☆
38	ダーウィンの生涯	八杉 竜一	岩波新書特装版	☆☆
39	ガロアの生涯	インフェルト	日本評論社	☆☆☆
40	キュリー夫人伝	E. キュリー	白水社	☆☆☆

【科学と技術】

41	ロウソクの科学	ファラデー	角川文庫	☆
42	零の発見-数学の生い立ち-	吉田 洋一	岩波新書	☆
43	ヨーロッパ科学史の旅	高野 義郎	NHKブックス	☆☆
44	物理学読本	朝永 振一郎編	みすず書房	☆☆
45	相対性理論	アインシュタイン	岩波文庫	☆☆
46	二重らせん	ワトソン	講談社文庫	☆☆
47	「技術大国・日本」の未来	西沢 潤一	朝日文庫	☆☆
48	匠の時代	内橋 克人	講談社文庫	☆☆
49	カオス-新しい科学をつくる-	J. グリック	新潮文庫	☆☆☆

【自然と人間】

50	われらみな動物みな兄弟	畑 正憲	角川文庫	☆
51	ソロモンの指環	K. ローレンツ	早川書房	☆☆
52	森の不思議	神山 恵三	岩波新書	☆☆
53	地球環境報告	石 弘之	岩波新書	☆☆
54	パパラギ	ツイアピ	立風書房	☆
55	人間であること	時実 利彦	岩波新書	☆☆
56	無意識の構造	河合 隼雄	中公新書	☆☆

【日本文学】

57	日本文学の古典50選	久保田 淳	岩波ジュニア新書	☆☆
58	折々のうた	大岡 信	岩波新書	☆☆
59	万葉秀歌	斎藤 茂吉	岩波新書	☆☆☆
60	竜馬がゆく	司馬 遼太郎	文春文庫	☆☆
61	氷点	三浦 綾子	角川文庫	☆☆
62	点と線	松本 清張	新潮文庫	☆☆
63	橋のない川	住井 すゑ	新潮文庫	☆☆
64	銀河鉄道の夜	宮沢 賢治	角川文庫	☆
65	友情	武者小路 実篤	角川文庫	☆
66	伊豆の踊子	川端 康成	角川文庫	☆
67	潮騒	三島 由紀夫	新潮文庫	☆
68	阿部一族	森 鷗外	角川文庫	☆
69	地獄変	芥川 龍之介	角川文庫	☆
70	華岡青洲の妻	有吉 佐和子	新潮文庫	☆
71	こゝろ	夏目 漱石	新潮文庫	☆☆
72	人間失格	太宰 治	角川文庫	☆
73	高熱隧道	吉村 昭	新潮文庫	☆☆
74	天平の甕	井上 靖	新潮文庫	☆☆
75	海と毒薬	遠藤 周作	新潮文庫	☆
76	黒い雨	井伏 鱒二	新潮文庫	☆☆
77	野火	大岡 昇平	角川文庫	☆☆☆
78	破戒	島崎 藤村	新潮文庫	☆☆
79	楡家の人びと	北 杜夫	新潮文庫	☆☆☆
80	暗夜行路	志賀 直哉	新潮文庫	☆☆☆

【外国文学】

81	老人と海	ヘミングウェイ	新潮文庫	☆
82	変身	カフカ	角川文庫	☆
83	阿Q正伝	魯 迅	角川文庫	☆
84	車輪の下	ヘルマン・ヘッセ	角川文庫	☆☆
85	若きウェルテルの悩み	ゲーテ	新潮文庫	☆☆
86	ハムレット	シェイクスピア	岩波文庫	☆
87	ユートピア	トマス・モア	岩波文庫	☆☆
88	人間の絆	S. モーム	新潮文庫	☆☆☆
89	怒りの葡萄	スタインベック	新潮文庫	☆☆☆
90	西部戦線異状なし	レマルク	新潮文庫	☆☆☆
91	ガリヴァー旅行記	スウィフト	岩波文庫	☆☆☆
92	罪と罰	ドストエフスキー	新潮文庫	☆☆☆
93	ドン・キホーテ	セルバンテス	岩波文庫	☆☆☆
94	ジャン・クリストフ	ロマン・ロラン	岩波文庫	☆☆☆
95	レ・ミゼラブル	ユゴー	新潮文庫	☆☆☆
96	モモ	ミヤエロ・エンゲ	岩波書店	☆☆☆
97	影との戦い-ゲド戦記I-	ル・グウィン	岩波書店	☆☆
98	指輪物語	トールキン	評論社	☆☆
99	ワイルド・スワン	ユン・チアン	講談社	☆☆☆
100	1984年	G. オーウェル	ハヤカワ文庫	☆☆☆

読書感想文コンクールを終えて

図書館委員会

毎年行われている読書感想文コンクールは、今回で19回めになります。1・2年生を中心に応募作品395編の中から、図書館委員会と国語科の先生方が慎重に選考した結果、下記の6名の諸君の作品を選作と決定しました。ここに氏名を紹介して、その栄誉を称えたいと思います。

- 1 C 鎌田 愛 「こころ」
- 2 I 山岡 裕美 「日本一短い『母』への手紙」
- 1 S 長沼 譲 「ゲド戦記」
- 2 I 駒形 伸子 「君たちはどう生きるか」
- 2 E 赤木 誠志 「69 sixty nine」
- 2 I 中坪 麻紀 「巨食症の明けない夜明け」

この他に、選考の過程で高い評価を得て、最終選考に残った諸君は次のとおりです。氏名を記して、その努力を称えたいと思います。

- | | | | | |
|----------|----------|----------|----------|----------|
| 1 M 野間敬喜 | 1 M 山本隆久 | 1 S 中川高志 | 1 S 服部健二 | 1 S 山本貴嗣 |
| 1 E 田中弘導 | 1 E 林 興樹 | 1 E 森本貴志 | 1 I 中村有作 | 1 I 服部武史 |
| 1 C 村上敬子 | 2 M 濱下健生 | 2 M 西田真司 | 2 S 津下康平 | 2 S 平野裕介 |
| 2 E 小椋 崇 | 2 C 石井幸昌 | 2 C 奥田隆英 | 3 E 窪晋一郎 | |

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

寸評 入選となった6作品について、簡単なコメントを付け加えます。

1 Cの鎌田さんの作品については、もう既に「古典」と言ってもよいような名作に敢然と挑み、自分ができる限り精一杯理解しようとしている所に拍手を送りたく思います。「古典」と呼ばれるのは、読者が成長するにつれてまたより深い読み方ができる作品のことで、鎌田さんには、何年かして、またもう一度「こころ」を読んでくれることを願います。

2 Iの山岡さんの作品は、感想文の書き易い本を選んでいるのは事実ですが、文章が上手に書けているのでは一番だと感じました。機会があれば、もっと本格的な対象に挑戦して欲しいと思います。

1 Sの長沼君の文章には、まだ少しぎこちない所がありますが、背伸びをせず、対象を素直に読んで素直に文章化している点が好印象です。読書感想文はどうにも苦手という人にはよい手本となるのではないのでしょうか。

2 Iの駒形さんの作品も素直に感じたことが書けていると感じました。文章も上手です。駒形さんにも、またもっと本格的な本に挑戦して欲しいと思います。

2 Eの赤木君の作品の価値は、とにかく自分の考えを前面に出して、本を選び、読んで、とにかく自分の考えを文章化していること。これも一つの感想文の書き方だと思います。

2 I中坪さんの文章は、語彙が豊かで、表現の一つ一つにセンスを感じます。ただ、惜しむらくはそれに流されて、全体として文章の意味がとりにくくなっているようです。もう一度自分の感想を整理して推敲を加えれば“ピカ1”の作品となったのではないのでしょうか。(国語科・勢田)



表彰された皆さん(於・校長室)

入 選 作 品 紹 介

「こころ」を読んで

1 C 鎌 田 愛

この本の「こころ」という題名が、私をひきつけました。

なぜ「こころ」なのだろう、「こころ」とは一体なんなのだろうか？と。

読み進んで行くにつれて、私は、人間の身体の中を流れている「こころ」という暗い川の中を、一人で舟をこいで渡っていくような気がして来ました。とても寒々とした、重い気分でした。人を信じられなくなり、そして、自分をも信じられなくなって行く「先生」。「先生」の友人Kが、先生の好きな「お嬢さん」に「恋」をする。Kの気持ちをわかりながら、それでもなお、「お嬢さん」をあきらめることのできない先生。こんな三角関係は今でもよくあることだと思う。先に告白してしまった方が勝ちで、なかなか「私も、そうだ。」とは、言いがたい。先生も、Kが告白した時に、自分も同じ気持ちなのだ、言うことができた、後に起こる悲劇はなかったと思う。二人とも、お嬢さんに気持ちを言って、そのうえで、お嬢さんを選んでもらった良かったのに、と思う。読みながら、自分の気持ちを適切な場所や時に、ハッキリ言うことがどんなに大切なことかと、痛感した。でも、先生のとった態度こそ、ほとんどの人間が持つ「弱さ」なのかも知れない。チャンスを失った先生は、悩み苦しみ、最後は「お嬢さんを下さい」という行動に出て、大きく、Kを裏切ってしまう。

本当に好きな人ができたら？

その人を、自分の親友が好きになってしまったら？

「お嬢さんが私よりもKに心を傾けているならば、この恋は口へ云い出す価値のないものと私は決心していたのです。…此方でいくら思っても、向うが内心他の人に愛の眼を注いでいるならば、私はそんな女と一所になるのは厭なのです」——これは、恋の真理だろう。私も、そうありたい。でも、頭で考えていることと、感情が一致しないことがたくさんあるのも恋なのではないだろうか。

お嬢さんの本心が、この本の中ではよく見えていない。Kよりも先生が好きだったのだろうか。それとも、どっちでも良かったのだけれど、先生の方が先に申し込んだので、先生と結婚したのだろうか。その場合、先に行動をした方が勝ちということになる。

先生とお嬢さんのことを知ったKの気持ちは“自殺”するしか、おさまりがつかなかったのだろう。それほど大きなショックだったのに、先生のごことは一言も書かないで、自分のせいにして死んだのは、立派だったと思う。だから、なおのこと、先生は自分の良心に苦しめられ、救いのない世界に入らざるをえなかったのだろう。

人をごまかすことはできる。でも、自分をごまかすことはできない。自分と自分との戦いに負けて、先生も自分の「こころ」の平安は「死」しかない、と、罪悪感の中で、たえず感じていたのではないだろうか。だからこそ、明治天皇の死—乃木大将の殉死が、死ぬ時期を模索していた先生の、「死」への引き金になったように思う。

「こころ」とは？—人間の持つ良心だろうか。この良心が大きければ大きいほど、人から裏切られた時も、自分に敵しいのではないか。この「良心」こそが「人間らしさ」の説明なのではないか？

「先生」の苦悩が、まだ、私に重くのし掛かっている。晴れ晴れとした作品ではない。しかし、心の奥の奥に、「人間の本質」というものが何なのか、どう生きるべきかを、問いかけてくれているような気がした。



日本一短い『母』への手紙を読んで

21 山岡裕美

友達から手紙が届いた。封を切る。この心地よい緊張がとても好きだ。どんな便箋か、どんな内容か。相手は友達なので、学校の話や友達のこと、悩み事の相談などだろう。封筒の「山岡裕美様」と書かれてあるのを見て思わず顔がゆるむ。

本屋に行った。一冊の本に目がいく。「日本一短い『母』への手紙」——お母さんに手紙？考えたこともなかった。幼稚園の時、母の日に「お母さんありがとう」とメッセージカードを贈ったぐらいだった。興味があった。母親に手紙なんてどんな事が書いてあるのか。自分には「お母さんありがとう」という幼稚園レベルのことぐらいしか想像できなかった。

さっそく本を開いてみた。最初に審査員の感想が書かれている。目をうるませながら審査したと書かれていた。とりあえず「一筆啓上賞」の作品から読み始めていった。7歳の子供から80、90近い人達が、誰よりも近い存在である母に40字以内に思い思いに自分の母親を描いているのが手にとるようにわかった。自分と母親にしか理解できないような言葉を使っている作品もあった。

読み終えた後、「率直な感想は？」と言われると、言葉には表せない、該当する言葉がない、といったところだ。それぞれの作品独自の背景をみな背負っている。長い間電話一本かけていない人、ケンカをしている人、戦争中の事を思いながら書いている人、文句を言っている人……。それぞれの母親にあてられた短い手紙は、その人と母親におきた出来事を想像させるには充分すぎるものだった。「短いということは、一番大切な思いだけを伝える、ということだ。」と審査員の一人、俵万智さんが書いているのを痛切に感じた。

それぞれの作品に、それぞれの母親像がある。母親をどう思っているか。誰よりも近い所にいる人。時には非常にうっとりしい存在にもなったりする人。でも尊敬できる人。一般的にはこういう意見があると思う。しかし、この本の作品はもっと深味のある意見がストレートに書かれていた。年配の人達、中でも戦争中のことを書いている人達の作品は、火の海から子供を抱えて逃げた母親の姿が浮かんだ。きっと母親にとって子供はなに

よりの財産であり、二、三人の子供を抱えて逃げた人もあるというのに驚いた。その時の凜と張りつめた母親の顔つきはきっと忘れることができないものだったに違いない。

ふだん私たちは平和な世の中に住んでいるせいか、母に対する感謝の気持ちに欠け、母がいることへの幸せな立場の自分を全くといていいほど、当たり前になっている。自分の意見が認められないときも、「別に理解してくれなくてもいい、理解してもらおうとも思わない。」と思って勝手に行動した時も、母は冷静に物を言い、積極的に理解しようとする姿勢をとってしてくれたのを私は知っている。誤った行動を起こした時も、後始末、対処の仕方を教えてくれたのも母だった。そんな私の人生を生まれた時からずっと見守ってくれた。ひどい事を言っても、いつも朝起きたらお弁当が包んである。後めたい気持ちを持ちながらも「ありがとう」の一言もいえない自分が情けない。

手紙という形でもいいから、母親に感謝の気持ちが伝えられた人達がうらやましく思えた。素直さに感動した。母の日ぐらい手紙を書こうと思った。幼稚園レベルの文章でもいい。どうしても伝えたいと思う。いつもいつも本当に心からそう思っている。

「お母さん、いつもありがとう。」

「ゲド戦記」の世界と現実

15 長沼 譲

僕は中学一年生の時にこの「ゲド戦記—影との戦い—」を読んだことがあります。その時この物語に対して覚えた感情と、今回、高校一年生になって、改めて読んでみて感じたそれとでは、かなり違う点がありました。中学一年生の時はただただ本の中の空想の世界に憧れ、ゲド達のように魔法が使えたらどんなにすばらしいだろう、とそんなことばかりに気をとられて、作者はこの物語をとおして、何を訴えたかったか、などという考えは全くありませんでした。それが今、作者の考えが少しずつ分かってきたような気がします。

ゲドは自分の妬みなどの心からあの世の住民である影を呼び出しその影と戦わなければならないになりましたが、それは、人間の心の中でたえず行

われていることのように思えます。心の中の正の部分である、人間にしかない理性や道徳心は、負の部分である動物のような本能的に行動しようとする心を、抑制するために、戦いを始めます。しかし、ゲドが最終的に影と一つとなり、初めて全き人間となったように、その戦いは、どちらかを完全になくそうとするものではなく、自分の中に影があることを知り、それを自分の中でプラスにするための戦いではないか、と僕は思います。

また、この物語の中で「宇宙の均衡」というものについて魔法使いたちはゲドに語りますが、これは同時に現代に生きる私達にも語りかけているのかもしれない。彼らは、ものの姿を変えたりといった魔法使いのしわざは、その宇宙の均衡をゆるがすことにもなると言います。今、人間は地球の均衡をゆるがしています。傲慢な生き方から森林破壊、水質汚染、オゾン層の破壊などの問題を産み出し、それでもなお、目の前の利益のために魔法をかけ続け自然のものを人工のものへと変えていっているのです。姿変えの魔法はそれがたとえたわむれであっても、真の姿をなくしていく危険を常にはらんでいると物語にはあります。人間が姿変えの魔法をかけてできた人工物も、真の姿である自然物にもどすのは、大変に難しいのではないのでしょうか。

このような、現代人への指摘と読み取れる文章を見つけるたびに僕はどきっとさせられました。僕も自然破壊をしている一人なのです。それに気づいた時、僕は何をしなければならぬか。作者は何をさせたいのか。僕はゲドのように心の中の影を自然破壊という形で呼び出してしまったのかもしれない。それならば僕も影との戦いを始めなければいけません。僕だけでなく、すべての人間が戦わなければならないのです。そして再び影と一つになる時、人間は自然の一部として存在することができるようになるのではないのでしょうか。

この一冊の本から、いろいろな心の中のことが学びとれたような気がします。けれど、僕はそんな事を考えず、中学一年生の時のように、ただその物語にのめり込んでいくのも、悪くないと思います。



「君たちはどう生きるか」を読んで

21 駒形伸子

今年の二月の終わりに従兄^{いとこ}が結婚しました。その結婚式には、残念ながら私の家族は誰も行けなかったのですが、しばらくして家に当日の写真が送られてきた時、中に従兄の字で書いた父宛の手紙が入っていました。

手紙にはいろいろなことが書かれてありましたが、その中にこんな箇所を見つけました。

「ずっと前にいただいた吉野源三郎著の『君たちはどう生きるか』。

この本が、僕の心底のルーツになっているように思います。

実は、この本は私の父が親戚中の子供達に良い本だと言って贈ったものなのです。私自身も、いつのことか忘れてしまうほど小さい頃にも買ってはいたのですが、当時は、「君たちはどう生きるか」などという、いかにも難しいことばかり書いてあると言わんばかりのこの題名に、ただただ圧倒されてしまって、一ページもめくることができませんでした。しかしそんな私も、今回従兄の手紙を読んだことがきっかけとなり、題名だけで遠ざけていたこの本を読みたいと思ったわけです。

ここまで相当難しい本のように書いてしまいましたが、読んでみてすぐわかるように、そんなことは決してありません。中学生のコペル君こと本田潤一君の身の周りに起こるさまざまな出来事の話ばかりなのですから。

でも、そんな話の一つ一つの裏側には、著者の思想など重要なことが、ちゃんと隠されているのです。

私が今いちばん印象に残っているのは、コペル君が友達との固い約束を破って、親友が殴られているのに助けに行く勇気が出せないまま、一人その場で立ちすくんでしまったという場面です。助けに行きたいという気持ちがあるのに、心の中ではそう思っているのに、結局、何もできなかった……。

私もしコペル君の立場であったなら、言い訳をして自分がしてしまった行動を、何とかして正当化しようとするのではないか、そう思いました。実際コペル君もそうしようとしたのです。

けれどもコペル君は、言い訳を考えれば考えるほど自分が辛くなるのが分かって、許してもらえないのも覚悟で謝りの手紙を書きました。私はこのコペル君の決断にも感心しましたが、それ以上に、手紙に何もかもありのままに書いたところが偉いと思います。

さまざまな経験を通して成長するコペル君ですが、その支えとして、素晴らしい親友たちはもちろん、「人間として立派になって欲しい」という思いを残して死んでいったお父さん、何か悩んでいると、知らないふりをしながらもさりげなく元気づけてくれるお母さん、そして何よりも、どんなことでも相談ののってくれる叔父さんの存在は、大変大きなものであったと思います。

「私はどう生きるか」。自分なりに考えてみたのですが、情けないことにコペル君が考えるような立派な答は浮かんでできません。それで、ただ思いつくまま並べますが、私は自分の意志をしっかり持ち、常に新しいことを考えて、困難にぶち当たった時には少し冷静になって、違う角度から物事を見つめ直し、解決していきながら、さらに視野を広げていく、そんな人間になりたいと思います。

そして、後になって「この本が私の心底のルーツになっている」ぐらいのことを堂々と胸を張って言えるような人間になりたいです。

「69 sixty nine」を読んで

2E 赤木 誠志

一九六九年、東京大学は入試を中止した。ビートルズのメロディが流れ、ローリング・ストーンズも最高のシングルを発表し、ヒッピーが愛と平和を訴えていた。主人公の矢崎剣介は九州の西の端の、基地の町の高校三年生。レディ・ジェーンというニックネームを持つ美少女のために、矢崎剣介ことケンとは小さな革命を起こそうと決意する。彼女に認めてもらいたいがために、学校に落書きをし、バリケードを築き、そして垂れ幕をつくる。この不純な動機のエネルギーのすごさ。

この「69」は何といたらいいのだろうか、とにかく面白いのである。バリケード封鎖の時、ケンが仲間校長の机の上にウンコをしろと命令し

たり、童貞を捨てるために家出したことなどなど。僕はこの本を買う時にパリケード封鎖をするとか書いてあったので、まじめな本だと思ったのだが実際はまったくの逆で、あっという間に読んでしまった。僕は小説を読んで笑ったのは初めてのことだった。作者の村上龍も後書きの中で書いている。「これは楽しい小説である。こんなに楽しい小説を書くことはこの先もうないだろうと思いながら書いた。」

村上龍はいったいどんな人だろう。テレビのレギュラーを持ち、これが高視聴率を稼いでいるらしいのだが、僕は村上龍という名前さえ聞いたこともない。この「69」は村上龍の高校時代に起こったことの一部を書いたものらしい。ケンは一年の秋に行われた医大、医学部進学希望者対象の全国模試で二万人中三百二十一番になったことがあるのだから賢いのだろうが、僕はこんな高校生が本当にいるのかと思った。ケンは高校生とは思えないほど口が達者で、やろうと決めたことは素早く行動に移す。英語劇部顧問の先生とのやりとりはすごかった。「先生は戦争が嫌いですか。嫌いだったら反対しなければ卑怯ですよ。アメリカ軍は僕らの港を使ってるんですよ、人殺しのために。」と言うと教師は、「君らが考える問題ではない。ちゃんと大人になってから言いたまえ。」この教師はたくさん生徒に戦争はいけなくて教えておきながら、港から出るアメリカ軍のことは黙っている。黙っているのは認めたことと同じだ。口で正しい事を言うのはだれでも言えるのだが、それを行動に移すのはけっこう難しい。

僕はケンの言ってることすべてに共感した。ケンはどんなに暗い時でも楽しんでいる奴が勝ちなのだと言っている。「暗い人間は他人からエネルギーを吸い取って生きるから始末が悪い。」とか、「楽しんで生きないのは、罪なことだ。」とも言っている。僕やクラスの友達は今、楽しく生きているだろうか。朝起きて学校に行き、帰るとテレビを見て、気がむけば勉強して寝るというそんな変化のない毎日だ。専業主婦の気持ちがわかるような気がする。犬でも豚でも牛でもみんな同じだが、子供の頃は遊ばせてもらえる。北京料理仔豚の丸焼きに使われる仔豚は別だが、成獣の一步手前で、選別があり、分類される。高校生もそうだ。高校生は、家畜への第一歩なのだ。そして僕もケンの言う「家畜となりつつある高校生」の中の一人だ

ろう。「楽しんで生きないのは、罪なことだ」この言葉は最も印象に残った言葉だった。

「巨食症の明けない夜明け」を読んで

21 中坪麻紀

「巨食症」。いくら食べても、胃袋も心も満たされない食行動……。主人公の時子は自分の病名をこのように表現する。彼女が「巨」という文字を選択、いや、定義する所は非常に印象的であった。何故「巨」なのか？ 私は最初、「巨」を用いるところの重要性、用いることによって存在する彼女の世界を知らなかった。しかし、「過食症」では、あまりに一般的過ぎていや、「大食症」では、前近代的であり、「超食症」では、昭和四十年代していると彼女が「巨」にこだわる所を見て、私は共感を覚えた。私は、彼女の世界を少し知ったような気がした。「巨」という膨大な風船の中に彼女はいる。破裂することはないが、ふわふわとしていていかにもいつ割れてもおかしくないような……。これは永遠に膨らむ風船。孤独、不安、焦燥など、彼女を巨食へ強いる物質がこの風船の外側から内側へ進入しようと圧迫し続ける。これは、私の脳裏のスクリーンに写し出されたイメージ像である。彼女は自分の存在する風船の外側から圧迫してくる物質を内部に入れまいと、それから逃れるため、風船の内部を食物で満たそうとしている!!——そう思った。私は過食に溺れる彼女に、何度も心の中で叫んだ。「風船はただ膨らむ一方、何の解決にもならぬ食物が増加していきただけなんだ。もう膨らませてはいけない!!」と。

しかし、風船の膨張をストップさせるにはどうしたらよいか？ 巨食の闇から抜け出す手掛かりを見つけないければならない。この風船を膨らませてはいけないことぐらい彼女も十二分に承知のはずだ。母親との関係、恋人のこと、彼女は思い悩む問題から逃避しているのではないか。現実逃避ではなく、真っ向から対決して欲しい。決して容易なことではない。けれども、明るい明日を信じ、希望の橋を架けることのできるように毎日を生きて欲しい。私も毎日をそう生きたいと感じた。

「食べる」ことで安堵感を得る、だが満たされない。人はいつも心が満たされていないから

ないのか？ 自分自身に問題提起をし、私は苦悩した。喜・怒・哀・楽。様々な感情が入り乱れている心。満たされていないと感じる時でも心の中には感情が存在している訳で、何もその感情を殺して悔恨の念に捉われる必要などないじゃないか。つらい時もあるべくプラス指向で現実を見つめる。主人公の時子さん、満たされない心を無理に満たそうとして過食に走るのはやめて下さい。満たされない心というのは醜いものなんかではなく、これからの道程の大切な手荷物となるだろう。そう思う。

最後に、「食べるということは、どういうことなのでしょう。」という問題提起について、私は今まで、「食べる」ということを真剣に考えたことがなかったことに驚いた。私が生まれてこの方、毎日欠かすことのなかった食行動。不自由なく食行動を行えたことによって、有難みも感謝の気持ちもあまりなかった。当たり前意識を持っていた自分を恥じた。現代、世の中は飢餓を知らない飽食時代。こんな時代だから「巨食症」があるのかもしれない。私達は食糧難の時代になった時、真実の「食べること」を、食べる喜びを、感謝の気持ちを全身全霊で感じとるのだろうか。私は身震いした。それでは遅いのだ。今、「食べる」ということをもっと真剣に思考してみようと思った。「食べるということは、どういうことなのでしょう。」の答えはゆっくりと自分自身で出してみようと思っている。

寄贈図書リスト

(書名)	(寄贈者名)
○ 人生の本 1～10、別巻	
亀井勝一郎他編	本校職員奥島美恵子氏
○ 超老伝 中島らも著	本校学生桜井公統君
○ 中島らものたまらん人々	〃
○ 西方冗土	〃
○ わが友本田宗一郎	〃
井深 大著	〃
○ ウルトラマン研究序説	
○ ジャンボ・ジェット機の飛ばし方	〃
○ 基本 互先の布石(上、下)他	11冊
	本校卒業生唐橋聡氏
○ パスカル「考える葦」の意味するもの	前田陽一著
	本校教官細井誠司氏
○ グラフィック制御工学入門	栗本尚著
	本校教官 栗本尚氏
この他に、奈良高専映像100選の決定に大きく寄与された本校名誉教授田中先生より、100選中図書館に未所蔵だった黒澤明監督の名画「七人の侍」など25作品のLDの寄贈がありました。	

愛すべき図書館

情報工学科第4期卒業生 田北由貴子

「図書館だより」に載せる原稿を……と頼まれて4カ月、原稿が前号には間に合わず図書館の方には合わせる顔がない私ですが、高専時代に大変お世話になった図書館のことについて少し書いておきたいと思います。

一年生のころは私は一度も図書館で本を借りたことがありませんでした。しかし、高専生ならば誰もが苦しむ実験のレポートのため必要にせまられて放課後に、そのうち涼んだり温まったりするため空いた時間に、高学年になるとときには授業時間にまで図書館に通うようになりました。(先生、ごめんなさい)私をここまで通わせた図書館の魅力は、今年退官された物理のT教授が「うちの図書館は大和郡山で一番大きい」と自慢されていたように、蔵書が非常に豊富であることにあります。高専時代はそれほど意識しませんでした。私が現在通っている国立の地方大学(要するに田舎)のF大学の図書館には専門書は比較的そろっていますが、小説の類はほとんどありません。

本屋で本を買うとお金がかかります。図書館で本を借りるとたです。欲しい本があれば希望図書ノートに書けばいいのです。せっかくこんないい図書館があるのに利用しない手はないでしょう。(なんて書くともまるで図書館のまわし者みたいですが)私もえらそうに言えるほど立派な本を読んでいたわけではありません。もっと色々な分野の本を読んでおけばよかったと今さら後悔しています。

それと、言っておきたかったことは、「読み終わったら本は早く返しましょう。」ということです。私は待ちました、一年近くも。卒業した今もその本が借りられなかったことが残念です。S. シェルダンの本です。心当たりのある人、まだ返していなければ早く返しましょう。その本を待っていた人は私以外にもいましたよ。それと、なぜ勝手に本を持ち出すとブザーが鳴るのかわかった人、教えてください。私が図書館の方に聞くと「教えてあげない」と軽くあしらわれてしまいました。

最後に、大変お世話になった図書館関係の方々はこの場を借りて厚く御礼申し上げます。有難うございました。

私の読書・近況

現代伝説(?)

図書館委員会 福 島 克 彦

北欧神話は神々の話を主とした詩の形式で書かれたエッダと呼ばれる部分と英雄賛歌の伝説物語を散文の形式で書かれたサガと呼ばれる部分に大別されます。英語の授業で習われた方もいると思いますが「ベオウルフ」はそういった神話の一つです。

栗本薫の「グイン・サーガ」は現在執筆進行中の物語で豹頭人身のシレノス(ギリシャ神話で謂うところの半獣神)グインを主人公とする創作奇譚である。三国志風に仕立てられた長編で、作者は完成までに100巻を要するだろうと見積っており、もうすぐ中間点を通過しようとしている。夜見る夢のように荒唐無稽な話が次から次へ飛び出し飽きることがない。若い頃粋だった老人が炳端語り風に口から出まかせにおしゃべりする思い出話を聞いているような雰囲気がある。カウンセリングを受けに来ていた学生に面白いからと勧められた本だが、今ははまってしまつて次の巻が出るのを楽しみにしている。作者は中島梓のペンネームで、たとえば「コミュニケーション不全症候群」といった現代の若者心理を分析した本も書いているし、朝日新聞日曜日の書評欄の書評子の一人でもある。

「最近中高生の間に口コミで話題にされ知られるようになった」(こういうキャッチコピーで宣伝されているのかも)「NIGHT HEAD」(I~IX+1、飯田譲治)を読んだ。TVの深夜番組として製作放送され、後に単行本として出版された。番組の方は視聴率を気にしなくてもいい時間帯なので相当実験的な試みがなされたようだ。謂ゆる超能力ものである。半村良に「岬一郎の場合」という超能力ものがあるがテンポとタッチが違ふようだ。しかし登場人物にミサキ老人という人物が出てきて、何かしら訳もなく納得して読んでしまった。全体に分裂病の妄想世界を描いたような感じがして興味深い。

時代がメランコ型(躁鬱病質型)からシゾイド型(分裂病質型)に移行を感じさせるとき、これらの本が共感的に読まれるゆえんかも知れない。

校内コンクール 日本一短い「家族」への手紙

図書館委員会

読書週間にちなみ、「日本一短い『家族』への手紙」を校内で募集したところ、全部で78編集まりました。図書館委員会では、この中から次の17編を選んで、一律に「入選」としました。匿名希望の作品も混じっているので、今回は作者名を公表しません。誰の作品か詮索はしないで、作品そのものの良さを味わってみてください。

「家族」といえば、父母はもちろん猫まで登場しました。それぞれの作品が家族への思いやりに満ちており、作り手の優しさが伝わってきて、読んでいて楽しく心温まる作品ばかりですね。

皆さんは、どれがよいと思いますか。

- お父さん
夏になったら 海に出て 釣りしよう
舵は 僕が受け持つよ
- お父さん
僕が20歳になったら
一緒に酒飲みながら 巨人戦を見ような
- お父さん
なかなか 家にはいませんね
たまには 男同志の話をしませんか
- 「行ってきます」「ただいま」
—ただ これだけです
お父さん
- お父さん
小遣い値上げしてくれ
物価あがってるねんぞ ジュース買うても 110円!
- お父さん
未成年の僕に
お酒を勧めないでください
- 幼かったころ 大きく見えた父さんの背中
それが 今では 僕と変わらない
なぜか 悲しいです
- お母さん
いつもは 口先ばかりだけど
今度こそ 一人で 夕飯作ってみせます
- お母さん
あなたは おちゃめですね
私の机の上に Hな本を何気なく置いて
- お母さん
弁当を残して帰ったとき 胸が苦しかった
勘弁してね
- お母さん
そんなに忙しく 働かないで
その分 私ががんばるから
- お母さん
いつも 仕事たいへんだけど
俺が いつか 楽させてやる
- おじいちゃん
あなたの好きだったケーキを 作ります
おなか減らして 天国で待っててね
- おじいちゃん
一人暮らしは 淋しいでしょう
来年は 一緒に暮らそうね
- 大学へいったお姉さん
家は ひろびろ 静かになりました
一人で 本当にやっていますか
- 弟よ
将棋で 負けたからって
将棋盤 ひっくり返すな
- 猫のルウちゃん
ベッドを いつも 占領しないで!
仲良く 寝ようよ

第2回ブック・ハンティングを実施して

11月10日(木)、本年度2回目のブック・ハンティングを啓林堂書店にて行いました。参加者は、常連となった1C水谷、2M板坂、2E林、3S後藤田、3E山本、3C田村、4S村井の7名の学生図書委員の皆さんと細井図書館長、福井図書館職員の総勢9名でした。

午後4時からという比較的混み合う時間帯でしたが、既にベテランハンターとなった図書委員の皆さんは、上手に人垣をかき分け自身の読みたい本や頼まれた本を懸命に探し回りました。今回は、出来るだけたくさんの方に参加してほしいという気持ちから上限を5千円+αと決めました。リストは以下の通りです。

白いメリーさん	中島らも	講談社	羽仁進の世界歴史物語	羽仁進	小学館
紺碧の艦隊(1、2)	荒巻義雄	徳間書店	悪魔の歴史	ケーラス	青土社
影武者徳川家康(上、下)	隆慶一郎	新潮社	アイルトン・セナ写真集	サットン	ソニー・マガジン
白蓮れんげ	林真理子	中央公論社	セナ	スポーツ・グラフィック	文芸春秋
素晴らしき家族旅行	〃	毎日新聞社	海軍主計大尉の太平洋戦争	高戸顕隆	光人社
万延元年のフットボール	大江健三郎	講談社	グイン・サーガ外伝1-5	栗本薫	早川書房
Night Head 4	飯田譲治	角川書店	グイン・サーガハンドブック	〃	〃
宇宙皇子(6、7)	藤川桂介	〃	ラビット病	山田詠美	新潮社
お茶の作法入門	茶の湯文化普及会	西東社	ロードス島伝説	水野良	角川書店
天使の自立(上、下)	シェルダン	アカデミー出版	ゲート・デーモンの仮面	山本弘 他	富士見書房
(続) 大阪学	大谷見一	経営書院	戦乙女の槍	内藤渡 他	〃
絵でわかる電気の一般常識	小谷誠 他	新星出版社	妖魔夜行 悪夢ふたたび	山本弘	角川書店
電気なんかこわくない!	藤村安志	誠文堂新光社	妖魔夜行 真夜中の夢	〃	〃
初めて電気回路を学ぶ人のために	梅木一良	オーム社	暗殺の事典	シファキス	〃
図解演習 熱力学	北山直方	オーム社	エンサイクロペディア 銀河英雄伝説	らいとすたっふ	徳間書店
プロジェクトの外し方入門	北山忍 他	日本文芸社	TMN最後の嘘 [トリック]	藤井徹貴	ソニー・マガジンス
無理しない方が愛される	加藤諭三	三笠書房	Access Odyssey	〃	〃
漢字でわかる韓国語入門	水谷嘉之	詳伝社			

お知らせ

☆ 学年末休業中の図書館利用について

- ・開館日時 3月17日(金)~4月3日(月)
8:30~17:00まで
土・夜間開館はありません
- ・閉館日 4月4日(火)~4月6日(休)
館内整理、新年度準備のため閉館
- ・貸出冊数 6冊 3月13日(月)より貸出
- ・返却日 3月6日(月)より貸出の本は、
4月10日(月)までに返却

なお、卒業予定者は卒業式当日までに必ず返却して下さい。

編集後記

◇今回のLibrary Newsは原稿収集や編集作業が順調に進み、例年よりも少し早く学生・教職員のみなさんにお渡しできそうです。編集委員である私は結局なにもしませんでした。新システムが一日でも早く稼働するように最大限の努力をすることでお許し願いたいと思います。(A)

◇昨年末、最新鋭パソコンPC-98Xsと周辺機器が入りました。目下、情報工学科A先生に図書管理システムなどのインストール作業を依頼しているところです。忙しい教育・研究の合間を縫って、誠実に対処される姿勢に心を打たれました。(F)

◇早や卒業式のシーズンを迎えます。巣立てば懐かしくなる母校……思い出したらいつでも訪れて下さい。(図書係一同)